

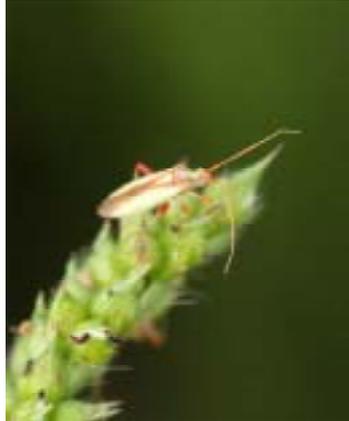
愛知県における水稻の斑点米カメムシ類

1 種類及び形態



ホソハリカメムシ成虫

成虫の体長10 mm程で、全体に黄褐色をしており、暗褐色の点刻があり、前胸の先端が鋭く尖っている。



アスジカスミカメ成虫

体長5 mm程で、全体に淡い黄緑色、背面の太い縦線は、橙赤色をしており、触角と腿節も赤い。



イネカメムシ成虫

体長12 mm程で、黄白色に暗褐色の点刻がみられる。



クモヘリカメムシ成虫

成虫の体長16 mm程で、細長く全体は黄緑色、翅が褐色に見える。



シラホシカメムシ成虫

成虫の体長5 mm程で、背面は灰褐色、中胸部に2対の白い斑点がある。



ミナミアオカメムシ成虫

成虫の体長15 mm程で、腹部背面(翅の下の腹板)が緑色。

2 生態

稲を加害するカメムシの多くは、畦畔のイネ科の雑草などで生活しており、稲が出穂すると飛来して加害する。

3 被害

稲の穂を吸汁するため、玄米の稔実が悪くなったり、吸汁痕が変色して斑点米になり、収量や品質を低下させる。

カメムシ類の吸汁害による斑点米

上段はカスミカメムシ類による斑点米(尻黒米、黒蝕粒)
下段はクモヘリカメムシやホソハリカメムシなどによる斑点米。

